

# 大阪文化祭賞 受賞者決定

## 第1部門 伝統芸能、邦舞、邦楽

### 大阪文化祭賞 ▶ 上村吉弥

\*関西・歌舞伎を愛する会 第29回七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記引窓』

### 同 奨励賞 ▶ 豊竹靖太夫

\*錦秋文楽公演『ひらかな盛衰記【大津宿屋の段】』

## 第2部門 現代演劇・大衆芸能

### 大阪文化祭賞 ▶ 曾我廼家文童、井上恵美子

\*松竹新喜劇錦秋公演『お家はんと直どん』

### 同 奨励賞 ▶ 桂 福丸 ▶ 極東退屈道場

\*桂 福丸独演会 フクマルまつり

\*LG20/21クロニクル

## 第3部門 洋舞・洋楽

### 大阪文化祭賞 ▶ 堺シティオペラ、大阪交響楽団

\* il Teatro L'alba L'amore “オペラ×オーケストラ” 歌劇『トゥーランドット』

### 同 奨励賞 ▶ 檜垣智也 ▶ niconomiel

\*アークスモニウムリサイタル

\*niconomiel vol.2『Synergy』

(敬称略) \*は受賞成果

詳しくはホームページへ▶<https://www.osaka-bunka.jp/bunkasai/index.php>



受賞者(前列)と主催者および各部門の審査委員長(後列)

## 上村吉弥さんら8公演に賞を贈呈

大阪府内で1年間に開催された公演の中から、とくに優れた成果をあげた人や団体を顕彰する大阪文化祭賞(大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会主催)。1963(昭和38)年の創設以来58回目となる今回は、歌舞伎俳優の上村吉弥さん、松竹新喜劇の曾我廼家文童さんと井上恵美子さん、堺シティオペラおよび大阪交響楽団に大阪文化祭賞が贈られ、文楽太夫の豊竹靖太夫さんら3名・2団体に同奨励賞が贈られました。選考にあたっては、関西の著名な芸術家や文化人、ジャーナリストが公演を観て審査。最終審査に残った61公演の中から、独創性・企画・内容・技法などが総合的に優れた8公演が選ばれました。

今年3月29日には、NCB会館(大阪市北区)において各賞の贈呈式が行われました。コロナ禍で2年ぶりの七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記引窓』<sup>ふたつばらうらひのくわにっきひきまど</sup>に出演した上村吉弥さんは、「お幸役は、歌舞伎世話物の三婆の一つに数えられる大役。この役をつけてくださった片岡仁左衛門さんや関係者の方々に感謝するとともに、今後は後輩に芝居の仕方を引き継いでいくのが私の役目」と挨拶。曾我廼家文童さんは「師匠の茂林寺文福(曾我廼家十吾)の戯曲で賞をいただき、万分の一の恩返しができるようで嬉しい。大阪道頓堀で生まれた芝居は、日本人の心の琴線に触れる大阪の宝」と語り、井上恵美子さんは「今、世界は涙の多い時だが、少しでも早く笑いあえる時が戻るようお願いつつ、新喜劇の芸を磨いていきたい」と喜びました。また、2020年度に続く受賞となった堺シティオペラの坂口菜里理事長は、「この賞の重みを感じ、アフターコロナにかけてどのようにして大阪の

文化を支えていくかを心に刻んで精進していきたい」と挨拶。大阪交響楽団の赤穂正秀事務局長は、「南大阪を中心に活動する団体として、大きく羽ばたくきっかけになる」と語りました。

審査の経緯を報告した当協会の崎元利樹理事長は、「コロナ禍の厳しい状況の中、大阪の底力を見せる公演が多く行われた。アフターコロナの大阪を元気にするために、皆様の活躍がエネルギーになる」と受賞者を讃えました。当協会は、大阪の芸術文化活動の奨励および普及を図り、文化振興の機運を醸成することを目的とするとともに、受賞者の一層の励みとなるよう副賞賞金(大阪文化祭賞20万円、同奨励賞5万円)や表彰盾を提供しています。

賞贈呈式の後、堺シティオペラの出演者による受賞記念公演が行われ、カラフ王子のアリア『誰も寝てはならぬ』などが披露されました。



受賞記念公演にて  
左から関口康祐さん(ピアノ)、並河寿美さん、水口健次さん



上村吉弥さん



曾我廼家文童さんと井上恵美子さん



堺シティオペラ、大阪交響楽団